



病院で病気は悪化する…?!

Aさんは心臓が悪く、ペースメーカー埋め込み術を行い、数年になる。定期的に電池交換に入院をしているが、入院前には、リハビリを一生懸命行い、1日でも早く退院できるよう頑張っていた。無事に電池交換が終わった矢先に発熱し、誤嚥性肺炎を起こし症状が悪化した。更に酸素チューブや尿の管、点滴やらと管だらけになった。

病院から Aさんの妻に連絡があり、「延命のために人工呼吸器をつけるかどうか」と、医師から問われ、何が何だかわからず動揺し仏壇に手を合わせた。仏壇には『ケアホーム希望』で看取りをしたMばあちゃんの写真があり、Mばあちゃんから『ケアホーム希望』に相談したら…、と言っているように聞こえたと、Aさんの妻から慌てて『ケアホーム希望』へ連絡が入り、相談に来た。

Aさん夫婦に、子どもはいない。親類も地方のため、すぐには駆けつけてこれない状況である。病院へ医師からの説明を聞きに行く日、「一人では心配だから一緒に聞いてほしい」と、妻から頼まれ、代表の金沢が同席する。病室で Aさんに会うと「早く帰りたい…なんでこんなことになったのか、悔しい…」と、かすれた声で妻に訴えていた。

医師からの説明は「ペースメーカーの電池交換はうまくいったが、年齢的に嚥下機能も悪く、誤嚥性肺炎を起こしたのだろう」と、淡々と説明する。更に人工呼吸器を付けると外せなくなるし、自宅での介護は無理でしょう」と言ってくる…。

今回の入院は誤嚥性肺炎で入院をした訳ではない。ペースメーカーの電池交換ですぐに退院できると思っていただけに、このような状況となり惜しさが残る。医師に「手術前に肺機能の検査をしたのか」と尋ねると、「検査はしていない」と言う。とにかく、本人の気持ちに寄り添い肺炎を治すために治療に専念してほしい。また、新型コロナウイルスの感染防止だからと言って、突然面会することもできず、今の状況を受け止められない。面会が許可され、妻がいる時間帯は抑制されず妻がナースコールで夫の容態を伝え、対応してもらう。

現在は、鼻からの酸素チューブも外れ、車椅子での移動ができるようにまで回復した。

このような事から学ぶことは…

- ① 医師に全て任せますは禁語。
おかしいと思ったことはおかしいと本人の気持ちをきちんと伝え、納得できるまで医師と話し合う。
- ② 医師からの説明を受けるときは、身近に医療に携わる人がいれば同席してもらう。
ただし、身内でないと医師は「どのような関係で物事を言っているのか」等と言ってくる。
- ③ 人工呼吸器について、突然話があるが最終のことなので、その経過まで最善を尽くしてもらいたいことをきちんと伝える。
- ④ 病院に 家族は 頻回に行き、病状を確認したり、抑制等されている苦痛な時間を 少なくしてあげることが大切である。

病院に入院して いろいろ医師に言うと、本人に何かされたら困る、また 人質を取られているからと、くだらないことを言う人がいるが、間違った捉え方をしないで、医師と向き合うことが大切なのではないだろうか？



みんなの願い事



のぞみ 希望 日誌

私が「ケアホーム希望」に入職して6年になる。これまでグループホームで働いていて、痰が詰まりゴロゴロして 看護師や医師に連絡するも「様子を見て…」と、具体的な指示はなく、利用者さんの様子をみていることしかできず悔しい思いをしてきた。自分が少しでも何かしてあげられることで目の前の利用者さんの 苦痛を和らげてあげたいと、看護小規模多機能型居宅介護『ケアホーム希望』に入職した。

吸引や胃ろう注入ができる資格も取り、積極的に研修にも参加し、医療ニーズの高い利用者さんへのケアも今は行うことができます。

グループホームで学んだ認知症ケアの経験も十分に活かすことができ、これまで利用者さんから学んだ多くの経験を糧に これからも日々精進して参ります。

